

2024年度 大谷大学自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準1 理念・目的

評価項目① 大学の理念・目的を適切に設定していること。また、それを踏まえ、学部及び研究科の目的を適切に設定し、公表していること。				
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》
		前年度	当年度	
評価の視点1	大学が掲げる理念を踏まえ、教育研究活動等の諸活動を方向付ける大学の目的及び学部・研究科における教育研究上の目的を明らかにしているか。	○	○	■ 大学及び大学院の目的については、それぞれの学則に明記している（資料24-1-1【ウェブ】、24-1-2【ウェブ】）。 ■ 各学部・学科、研究科・専攻における教育研究上の目的についても、学則に明記している（資料24-1-1【ウェブ】、24-1-2【ウェブ】）。
評価の視点2	理念・目的を教職員及び学生に周知するとともに、社会に公表しているか。	○	○	■ 教職員・学生及び社会への周知については、以下のとおり実施している。 （１）教職員・学生及び社会／大学Webサイト 「開校の辞」（資料21-1-3【ウェブ】） 「大谷大学樹立の精神」（資料21-1-4【ウェブ】） （２）授業等（全学共通基礎科目『人間学Ⅰ』ほか）・スタッフ・ディベロップメント（以下、「SD」）研修（新人基礎研修／真宗本廟参拝ほか） 『学生手帳2024』（資料24-1-5）、『大谷大学で学ぶ－建学の理念－』（資料24-1-6）

評価項目② 大学として中・長期の計画その他の諸施策を策定していること。				
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》
		前年度	当年度	
評価の視点1	中・長期の計画その他の諸施策は、大学内外の状況を分析するとともに、組織、財政等の資源の裏付けを伴うなど、理念・目的の達成に向けて、具体的かつ実現可能な内容であるか。	○	○	■ 中・長期計画は、10年毎に策定している（資料21-1-7【ウェブ】、資料24-1-8）。 ■ 理念・目的の達成に向け、大学運営会議（大学執行部）は各部門の現状や課題を把握した上で、10年毎に5部門（教育／学生支援／研究／社会連携／管理運営による部門別方針）による中長期プランを策定し、重点施策を実現するための具体的な中期計画・単年度事業計画を毎年度の大学運営会議で進捗管理を行って運営している。 ■ 5部門における単年度事業計画については、国の施策や社会情勢を注視しつつ、事業推進に必要なデータ分析のもとに、大学運営会議での進捗管理を行っている（資料24-1-9、資料24-1-10）。

	評価の視点2	中・長期の計画その他の諸施策の進捗及び達成状況を定期的に検証しているか。	○	○	■中・長期計画等の進捗管理は、第3期大学評価（認証評価）結果を踏まえ、理事会・評議員会の意見を聴取し、年2回（8月執行部夏季ミーティング／2月大学運営会議）の進捗管理と検証を実施している（資料24-1-9、資料24-1-10）。 ■中・長期計画等の進捗管理と検証結果は、別途、親和性の高い業務である「私立大学ガバナンス・コード（私大連版）遵守状況報告書」の作成時に反映している。作成時は、ガバナンス・コード実施項目における点検項目について、所管部署からの回答内容を確認の上、遵守状況を記載している（資料24-1-11）。
--	--------	--------------------------------------	---	---	--

1) 長所・特色（あれば） ※成果を含む

No	自己点検・評価結果（長所・特色）			
1	点検項目	基準1	評価項目①	評価の視点1
	内容	■1901年の開校（開学）以降からの文学部単科大学から、社会学部・教育学部（2018年度）、国際学部（2021年度）への複数学部化を実行することで、各専門領域に特徴的な教育活動を、これまで以上に社会に開かれた体制で展開することが可能となった。		
	さらなる発展方策（あれば）	■本学における理念・使命の実現に向けた基盤強化を目的に、全学共通教育課程、学科専門教育課程及び学部・学科組織の改編並びに西側キャンパスの総合整備計画の推進に着手する。		
2	点検項目	基準1	評価項目①	評価の視点1
	内容	■本学における宗教教育、宗教行事、教職員研修（自校教育）、真宗大谷派教師課程、仏教教育の情報発信など、建学の精神を具現化するために2018年度から仏教教育センターを開設し、その推進体制を構築した。		
	さらなる発展方策（あれば）	■宗教行事における記念講演の一部を冊子化して学内外へ広く周知すべく、2023年度から『仏教教育センター叢書』の刊行を開始したが、継続して情報発信に取り組む（資料24-1-12）。 ■SD研修における「自校教育」は、教員を対象とする研修内容が過年度の課題であり、新入生の本山参拝式に新採用教員を対象とするなどの改善を進めている。2024年度は、教職員を対象に本学の学びの根幹である「人間学」をテーマとするSD研修会を開催したが、今後も継続的に推進する必要がある。 また、仏教教育委員会（仏教教育センターの上位機関）では、2024年度末に教員を対象とする自校教育のSD研修について検証し、2025年度の取組について検討する（資料24-1-13）。		

2) 問題点・課題（あれば）

No	自己点検・評価結果（課題）			
1	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	□担当組織で改善可能 / □大学運営会議で全学的な調整が必要 / □その他（ ）		
2	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	□担当組織で改善可能 / □大学運営会議で全学的な調整が必要 / □その他（ ）		